

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校)

<p>実践年度・タイトル</p>		<p>平成28年度 iPadを利用した弱視生徒の漢字学習</p>
<p>授業について</p>	<p>教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)</p>	<p><input type="checkbox"/>国語 <input type="checkbox"/>社会 <input type="checkbox"/>算数/数学 <input type="checkbox"/>理科 <input type="checkbox"/>生活 <input type="checkbox"/>音楽 <input type="checkbox"/>図画工作/美術 <input type="checkbox"/>家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/>体育/保健体育 <input type="checkbox"/>道徳 <input type="checkbox"/>外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/>総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/>特別活動 <input type="checkbox"/>自立活動 <input type="checkbox"/>各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/>その他の教科 <input checked="" type="checkbox"/>その他(自立活動)</p>
	<p>単元・題材名</p>	<p>漢字の理解と正確な書き取り</p>
	<p>授業の目標</p>	<p>既習の常用漢字の形を復習し、漢字を正確に理解する。</p>
	<p>観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>「知識・理解」 <input type="checkbox"/>「技能」 <input type="checkbox"/>「思考・判断・表現」 <input checked="" type="checkbox"/>「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/>その他()</p>
<p>学習集団と子どもの実態</p>	<p>学校・学部・学年・人数</p>	<p>■特別支援学校 <input type="checkbox"/>就学前 <input type="checkbox"/>小学生 ■中学生 <input type="checkbox"/>高校生以降 <input type="checkbox"/>特定されない 第2学年 1人</p>
	<p>対象の障害</p>	<p>■視覚障害 <input type="checkbox"/>聴覚障害 <input type="checkbox"/>知的障害 <input type="checkbox"/>肢体不自由 <input type="checkbox"/>病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/>言語障害 <input type="checkbox"/>自閉症 <input type="checkbox"/>情緒障害 <input type="checkbox"/>LD(学習障害) <input type="checkbox"/>ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/>その他</p>
	<p>子どもの課題 (特性・ニーズ)</p>	<p>■見る <input type="checkbox"/>聞く <input type="checkbox"/>話す ■読む ■書く <input type="checkbox"/>計算する <input type="checkbox"/>推論する <input type="checkbox"/>運動と姿勢 <input type="checkbox"/>日常生活活動 <input type="checkbox"/>不注意 <input type="checkbox"/>多動性・衝動性 <input type="checkbox"/>社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/>覚える・理解する <input type="checkbox"/>その他 漢字の定着に課題があり、漢字学習への抵抗感が強い。また、強度弱視のため、漢字学習において、はねや止め、線の数など字の細部まで確認することが難しく、正確な漢字の形を理解することが難しい。</p>
<p>ICT活用について</p>	<p>使用した支援機器・教材の名称と画像 (使用した支援機器・教材の名称を記載し画像を挿入。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)</p>	<p>iPad(Apple社) 常用漢字筆順辞典(Nowproduction社) </p>
	<p>活用のねらい</p>	<p>Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/>A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/>A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/>B1情報入手支援 <input type="checkbox"/>B2機器操作支援 <input type="checkbox"/>B3時間支援) C学習支援(■C1教科学習支援 <input type="checkbox"/>C2認知発達支援 <input type="checkbox"/>C3社会生活支援) 生徒は書見台を使用しているため、ノートと同一の平面上で、漢字を任意の倍率で白黒反転表示できることからiPadを利用した。使用したアプリでは、筆順に沿って一画ずつ漢字を表示したり、一画の表示スピードを変化させたりすることができるため、学びやすいと考えた。</p>
<p>授業に授業展開を支援</p>	<p>授業展開と画像 (授業の様子、ICT活用場面の画像を挿入。)</p>	<p>○ 授業時数 30時間 1時間で取り扱う漢字は16文字までとし、各時間の終了前に5問の書き取り問題を行った。生徒が興味・関心をもつようプロ野球に関する文章を作成し、PDFファイルにしてiPadで表示した。 生徒は、文章に出てくる漢字を1文字ずつ、上記のアプリで筆順や細部を確認しながら書き取りを行った。状況に応じて、筆順の速度を下げ、注意を促したり、一時停止して部首を確認したりするなど、授業者が説明しながら漢字の書き取りを行った。 </p>
<p>効果・評価</p>	<p>子どもの様子や変容および授業の評価</p>	<p>生徒が興味・関心のある題材を用いたことで、漢字の細部まで確認できるようになり、学習に集中できる時間が長くなったり、小学校第4・5学年に習う漢字を正しく書けるようになったりした。また、漢字を細部まで把握することにより、偏と旁などのパーツに分解し、漢字を理解することができるようになった。今後は、漢字学習ドリルなどのアプリを活用し、漢字の読み書きの学習を継続できるよう取り組んでいく。</p>